

大口町スポーツ少年団

子どもの
一生懸命を応援！

日差しが暖かくなり、美しい新緑が芽吹く季節
がやってきました。新学期に入り、新しくスポー
ツを始めようと考えている小学生のみなさん、ぜ
ひスポーツ少年団をのぞいてみてください。

地域の子どもたちと共に

大口町のスポーツ少年団が日本体
育協会の「スポーツ少年団」に登録
されたのは、平成5年のこと。その
成り立ちを立ち上げに尽力された、
大口オールキングス代表の社本直樹
さんに伺いました。

「昭和54年、私が高校1年生のとき
に家庭の事情で野球部を続けられな
くなり、代わりに当時小学校5年生
だった妹の同級生を集めて野球を教
えるようになったことに始まります。

平成5年に、保護者の協力もあり
日本スポーツ少年団に登録。でも大
口町で大会がなかったため、北小学
校地区で活動していた大口タイガー

ズと一緒に犬山市で開催される大会
に参加させてもらいました。その
後、大口リバース、サッカーの大口
FC、バレーボールとバドミント
ンの大口チェリースが登録し、平成7
年に現在のスポ少5団体がそろいま
した。

そのうち、大口町でも大会が開催
されるようになり、大口町代表とし
て県大会にも出場し、子どもたちに
たくさんの試合の経験をさせてあげ
ることができるようになりました」
と社本さん。

大口町のスポーツ少年団は、一人
の野球少年の行動力と、「子どもに野
球の楽しさを知ってほしい」という
熱意によって誕生したのです。

根性、集中力、
体力もつくよ



大口リバース

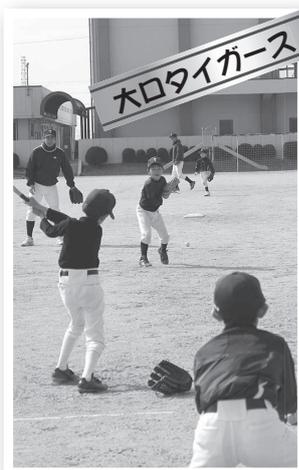


大口チェリース



楽しいよ！
体験に
来てネ！

大口タイガース



夏の暑さに
負けないよう
冬期は体力作りを
頑張ります



スポーツ少年団とは

「日本スポーツ少年団」は、昭和37年に日本体育協会創立50周年の記念事業として創設されました。その理念は、「青少年にスポーツの喜びを」「地域の子どもたちのごころとからだを育てる」というものです。つまり、目的は「スポーツの技術向上や「強いチームを作る」ことではなく、あくまで「地域の大人がみんなと一緒に子どもを育てましょう」というものです。スポーツを通して地域の大人と子ども、または子ども同士が交流し、一緒に汗を流すことで連帯感や一生懸命やることの喜びを覚えることが目標です。

平成28年に策定された、第7次大口町総合計画の中でも地域社会全体で子育て環境を整えていくことを目標に掲げています。

「礼儀正しくあいさつができることや、チームプレーの中で相手思いやること、そして練習した結果、できたことの喜びを感じてほしい」と、大口タイガース監督の堤高志さんはおっしゃいます。仲間や監督、先輩、後輩と接する中で、周りを見て思いやれる心を持つこと、それが真のスポーツマンシップにつながるのかもしれない。

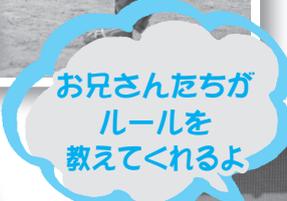
部員数減少

今、どの団も、団員が減少しています。「少子化問題もありますが、やはり、親の負担が大きいですね」と、昔のイメージが強いですね」と、堤さん。「我がタイガースも、一時はメンバーが7人まで減りました。しおりを作るなどして勧誘に力を入れ、現在20人まで増えました。お茶出しなどで、休日が全部つぶれるなど、マイナスイメージが先にたつて敬遠されがち。今は昔と事情が変わり、核家族が多く共働きで土日仕事というご家庭も多いと思います。参加は半日でも、他の習い事とのかけもちでもOKです。お茶出しも基本お断りしているので、お子さんをお預けいただけで結構です。ぜひ、体験してお子さんが一生懸命やるのころを見てみてほしい。スポ少はスポーツが好きな子なら、誰でも大歓迎です！」

また、大口オールキングスの社本さんもおっしゃいます。「子どもの成長はびっくりするくらい早い。4年生で入団したときにボールが5mしか飛ばなかった子が、6年生になりキャプテンを務めるほど上手になった例も。子どもの素直さ、順応性の高さには大人のほうが驚かされ



体験や見学、いつでもおいでよ！
待ってるね！



お兄さんたちがルールを教えてください



一緒にサッカーやろうよ！

ます。我がオールキングスも減少に危機感を感じて、規約を親御さんの負担を減らす方向にどんどん改正しています。想像されているより随分ゆるいと思いますので、一度興味をもって体験にきこっただやう」

野球の合同チーム誕生と、Tボール大会

人数が減っている中、野球チームはそれぞれの学年が良い経験をできるように工夫しています。「6年生は実践の体験ができるよう、野球チームで平成28年より合同チームを結成しました」と、スポ少部長の近藤一夫さん。「野球チームから6年生を集め、『大口町』を背負ったユニホームを新たに作り、年3回大きな試合に臨みます。普段は違うチームの子ども同士が切磋琢磨して、質の高い練習ができるのも魅力。大口町は中学校が1校なので、合同チームで一緒に練習した仲間と中学校で再会するのも、楽しみだと思えます」

低学年は野球を楽しめるようにとTボールで練習します。「止まっているスポンジのボールを打つので、小さい子や女の子でもがんがんに打つことができ、子どもたちは大喜びです。親御さんも混ざって一緒に大会



もやりますよ」と、近藤さん。「地域で地域の子どもを育てる」という理念のもと活動しているスポ少では、監督、コーチはみな地域のお父さん。全員ボランティアです。「自分たちが教えたことで、技術的にも精神的にも成長してくれるのを見るのが何よりの喜びです」と、口をそろえておっしゃいます。「子どもは素直で純粋。スポーツをやる中で、上下関係やしっかりあいさつすることを自然と覚えます」と堤さん。「一度、グラウンドにきてボールを追いかけたり触ったりしてみしてほしい。野球やサッカー、バレーの楽しさを、経験してみてください」

保護者のみなさんの思い

大口リバーズにお子さんが入団した瀬瀬さんは「きっかけは、土日に

家で退屈しているのを見かねて。主人も小中高とソフトボールをやっていたので、ぜひ子どもにもと積極的でした」



喜舎場さんご夫妻は「上級生が、とてもよく下級生の面倒をみてくれます。うちの子も、あんなふうになんかかわいがれるようになってほしいなあ。野球だけでなく、人とのつながりもできるのがスポ少の魅力だと思えます。皆さんに入団を誘うと、『スポ少って親が大変なんですよ』と言われるが、一度体験してもらおうと子どもがやる気になって、やってみようかなあと考えてもらえることが多いです。体験は、練習日ならいつでもOK。ぜひ、一度体験しにきてください」

取材にて

今回大口町のスポ少創始者、本部長、監督のみなさんとお話させていただき、みなさんがいろいろな顔をもっていらっしゃるという印象を受けました。指導者であり、子ども

たちのお父さんであり、一人のスポーツを愛する大人としての顔でお話してくださいました。ご自分が若いころ野球小僧で、野球からさまざまな経験、喜び、くやしき、チャレンジ精神、そして仲間を与えてもらった経験をもたれ、それと同じ経験をぜひとも地域の子どもにもという純粋な気持ちでいらっしゃることに感銘を受けました。

安全な遊び場所の減少や、ゲームやインターネットの普及により外遊びの機会が減ってきた今日、スポーツから得られることは大きいと改めて感じます。それはお話の中にあつた通り、技術や健康だけでなく、地域の大人や子ども同士の交流、そして人同士の交流の中で生まれるマナーや思いやりです。小さい時期だからこそ、スポンジが水を吸うように自然に身に着くこれらを、ぜひスポ少の中で育んでほしいと思えます。

スポ少に関するお問い合わせや体験のお申し込みは生涯学習課まで。詳しくは、広報おおくち3月号13ページをごらんください。

